

資格認定委員会より

1 認定心理士について

2021年度第3回委員会（通算第187回）が10月2日に開催されました。同年9月1日までに受け付けたうち621件を審査し、565件を合格、44件を保留、12件を不合格としました。また、以前の委員会で保留または不合格と判断されたうち追加資料の送付された22件を再審査し、16件を合格、3件を保留、3件を不合格としました。この結果、10月31日時点の2021年度の初回審査数は2,135件、総審査数は2,196件、合格件数は2,076件、資格取得者数は1,724名となりました。資格取得者は累計67,406名です。今後の認定委員会の開催予定日は2021年12月4日です（2021年11月15日現在）。

2 認定心理士（心理調査）

（通称：心理調査士）について

前掲委員会で、9月30日までに受け付けた14件を審査し、10件を合格、4件を不合格としました。以前の審議で保留または不合格と判断された申請のうち、追加資料の送付された2件を再審査し、1件を合格、1件を保留としました。

この結果、認定心理士（心理調査）の資格取得者の累計は341名となりました。

3 大会企画シンポジウム報告

2021年9月1日～8日にオンライン開催された日本心理学会第85回大会で、認定心理士の会企画シンポジウム「認定心理士の会のこれまでとこれから：オープンサイエンス時代におけるシチズンサイコロジストの役割」を行いました。認定心理士の会運営委員会の新・旧委員長（渡邊伸行先生・高瀬堅吉先生）に加えて、科学史がご専門の隠岐さや香先生（名古屋大学）にご登壇をお願いし、三浦が指定討論を行いました。はじめに、高瀬先生から「認定心理士の会のこれまで：心理学ワールド全体の動向とシチズン・サイエンスとの関係」というタイトルで、話題提供がありました。これまでの認定心理士の会の取り組みと、企画したが実施に至っていない取り組みについて、まとめていただきました。実施した取り組みとしては、各地域支部会におけるシンポジウム、ワークショップなどの開催、年次大会でのシンポジウムおよび社会連携セッションの開催、サイエンスカフェやFacebook

での交流、ニューズレターを通じた情報発信などが挙げられました。次に、隠岐先生から「制度化された科学とオープンサイエンス」というタイトルで、ご講演いただきました。17世紀以降、科学が制度化されていった過程や、21世紀に入ってからのオープンサイエンス推進の流れを解説していただき、最後に日本におけるシチズン・サイエンスの課題を提示していただきました。渡邊先生からは「認定心理士の会のこれから」というテーマで話題提供がありました。今後の会の活動について、上述のこれまでの取り組みを維持しつつ、より積極的に活動に参加してくれる認定心理士を増やしていくことを目標として挙げられました。指定討論では、シチズン・サイエンスプロジェクトに関わる問題や、今後の認定心理士の会の社会における役割について、議論しました。認定心理士の会のあり方について科学史の専門家を交えて議論する、有意義な機会となりました。

（資格担当常務理事・
大阪大学教授 三浦麻子）

Psychology World Online /

『心理学ワールド』最新号とバックナンバー（51号以降の記事）をホームページで公開しています。

<https://psych.or.jp/publication/world/>

記事の全文検索、PDFでの閲覧もできます。ぜひご利用ください。



心理学ワールドHP



読者の声

募集中！

『心理学ワールド』へのご意見・ご要望、記事へのご感想などをメールでお寄せください。

jpa@psych.or.jp

お待ちしております！